

米粉クッキー備蓄

新潟県
長岡市 試食会で災害食学ぶ

新潟県中越地震で大きな被害を受けた長岡市は、介護が必要な高齢者や子ども、腎臓病患者らの災害食を備蓄している。取り組みの一環で3月、アレルギー源となる「米粉クッキー」の備蓄を始めた。併せて試食会を開き、子どもたちに災害時の食べ物や食料備蓄の大切さを伝えた。

米粉クッキーは、(株)美松と(有)エコ・ライス新潟が開発した。原料には県産米を使用。5年間の長期保存が可能だ。食物アレルギー27品目に対応しているため、アレルギーを持った子どもでも安心して、おいしく食べられる。1箱8枚入りで、プレーンとイチゴ味、小松菜味の3種類。市立保育園46園は昨年6月から、

おやつとして採用。おいしいと園児に好評だ。

試食会は2日、市が運営する子育て支援施設「子育ての駅・ぐんぐん」で開いた。親子60人が参加。講師は、市の職員と人型ロボット「ペッパー」が務めた。森民夫市長は、参加者に米粉クッキーを手渡しして、一緒に味わった。親子3人で参加した田辺まなかさん(34)は「長男には卵アレルギーがあるので本当に助かる。災害時でも安心して食べることができてうれしい」と歓迎した。森市長は「長岡発のアレルギーフリーのクッキーを全国に広げていきたい。震災を経験した地域の責任でもある」と述べた。



ペッパーと一緒に、おいしく災害食を学ぶ親子